

第1回 京丹波町地域福祉計画推進委員会 議事概要

日時：令和6年8月26日（月） 午後1時30分～午後3時30分

場所：京丹波町役場 1階 防災会議室

出席者：山下委員、片山委員、明田委員、堀川委員、皆見委員、山田委員、若松委員、谷山委員、山本副委員長、谷口委員長、太田委員、塩田委員、原田委員（13人）

欠席者：友金委員、上畑委員（2人）

事務局：健康福祉部：木南部長

健康福祉部子育て支援課：保田課長

健康福祉部福祉支援課：原澤課長、堀補佐、上西補佐、並河補佐

1 開会（原澤課長の司会により進行）

2 委嘱状の交付

町長から、委員代表として山下立男委員へ委嘱状を交付（他の委員へは事務局から手渡し）

3 町長あいさつ

出席及び委員就任等へのお礼。

京丹波町地域福祉計画は、平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間とする計画で、折り返しとなる令和4年3月に見直しを行い、改訂版を策定した。計画の見直しに際し、本町の地域福祉の現状の把握や課題の整理を行ったところ、当初の計画策定時と比べて、福祉に対する意識の変化、福祉への関心が低くなっていることが明らかとなり、非常に危機感をもって臨みたいと思っている。

計画見直しの過程において、人と人との交流やつながりによって作り上げられた相互の信頼が、地域福祉の推進にとって何よりも大切であるということがあらためて確認された。

昨今は、困難な課題を同時に複数抱える家庭や、困難な状況にありながら誰にも相談できずに孤立してしまう方など、住民の抱える課題も複雑・多様化している状況にある。困難な課題を抱える方を気遣い、声をかけることができるきずなを作ること、誰もが主体的に参画できる町づくりのため、委員の皆様には、それぞれのお立場から幅広い議論を行っていただき、京丹波の地元福祉力の向上を図り、安心して生活できる京丹波町の実現に向けて、ご協力をいただきたい。

4 自己紹介

各委員、事務局の順に自己紹介。

5 委員長、副委員長の選出

事務局：選出方法についてお諮りする。

委員：事務局案があれば提案していただきたい。

事務局：委員長に谷口委員様、副委員長は山本委員様にお願いしたい。御両名にお願いすることとしてよろしいか。

異論なく下記のとおり決定。

委員長（谷口 誠 委員）

副委員長（山本 亮栄 委員）

<委員長、副委員長就任あいさつ>

・谷口委員長

前回は委員長として務めさせていただいた。皆様のご理解ご協力をいただきながら進めさせていただきたいと思う。委員の皆様のご意見をできるだけ地域福祉計画に役立てていけたらと思っているので、その点も含め、いろいろなご意見を出していただきたい。大変お世話になりますが、よろしくお願ひします。

・山本副委員長

地域福祉課長となり、まだ2年目で経験不足であるが、皆様のご協力をいただいて進めていきたいと思う。よろしくお願ひします。

6 協議事項

(1) 委員会の設置要綱について

- ・資料1「京丹波町地域福祉計画推進委員会設置要綱」についての説明。

（説明：事務局から説明）

委員からの質疑、意見はなし。

(2) 京丹波町地域福祉計画の概要について

- ・資料「京丹波町地域福祉計画 改訂版 概要版」についての説明。

（説明：事務局から説明）

委員長：ご質問やご意見はありますか。

委員：計画の改訂版の改訂はしないのかということが気になっている。現状値が令和2年度になっていて、新型コロナが始まり、生活様式が変わったということが分かっている、新型コロナの後はどうなったのか、今の現状は分からない。こういう情報はとても重要だと思うので、直近の年度の状況は、お配りされている資料2や資料3で確認すると思うが、2年任期で委員は代わるので、できれば2年ごとに更新してもらおう方が継続している委員にとっても現状が分かるのではないか。

この地域福祉計画推進委員会は年1回ぐらいしか会議がない。町としてはいろいろな計画の中で動いていただいているが、委員として参加するのであれば、もう少し建設的に、町のことをもっと身近に考えていかないと、京丹波町はどんどん人口も減っている中で、このままであれば子どもが大きくなる頃には、この地域はあるのかと思っている人もいる。

せっかくこういう良いことをしているので、参加している人たちの意見が生かされないまま終わってしまうのはどうなのか。決まりだから年1回出してもらっただけでは意味がないと思う。改訂版をまた改訂される予定があるのか教えていただきたい。

委員長： 事務局何かありますか。

事務局： 委員会の開催の頻度につきましては、年1回になっており、その部分については、また検討させていただいて、改善できるのであれば、もう少し開催の頻度を高め、きめ細かくご意見をいただくように工夫していきたい。

計画の改訂については、この地域福祉計画が元々10年間の計画ということで、平成29年度をスタートとする年度で始まった。10年間という長い計画期間であり、とても10年間を見通して計画を立てるのは難しいという現状認識で、折り返しの5年で見直しをしたという経過がある。それでも、ご意見をいただいたように予想しなかったような変化を経験して、現状にそぐわない部分もあるかと思う。予定としては、この5年間の計画が終了して、新たな計画を立てるということで現状進んでいるので、令和8年度までの見直しは予定していない。

次期計画の策定において、少ない機会ではあるが、委員会でご発言いただいたことは、計画に反映させていきたいと考えているので、引き続きご了承ください、ご協力をいただきたい。

委員： 今、説明をいただいたが、私が言いたかったのは、この改訂版の印刷物（概要版）の年度は変わらないのかということで、ここに載っているのは現状値が令和2年度なので、もう4年前になる。それからコロナとかがあって、結局、今の現状値は追加の資料にあるが、これは誰に配るのかという話で、生の数字を反映させない古い印刷物をいつまでも使っても意味がないということを言いたかった。計画自体は当然少し変えるだけでも大変なことであるが、印刷物自体は現状の数字を出すだけなので、2年に1度、委員が変わるタイミングで更新されたらどうかという提案である。

委員長： 計画はホームページで公表しているのか。

事務局： 計画はホームページで公表している。今回、次の議題でも説明させていただくが、現状把握が必要ではないかということで、昨年度ご意見をいただいて、アンケート調査をしたが、アンケートの母数、回答の件数が計画策定時の回答数と大きく違う。比較という意味でかなり難しいこともあり、そういった断りをした上で公表することもできるかと思っている。計画

策定時のアンケートの数がかなり多いので、単純な比較は難しい面もあり、工夫をして現状を町民の皆様にお知らせできるように検討していきたい。

(3) 京丹波町地域福祉計画の進捗について

- ・資料2「地域福祉計画のうちアンケート調査結果以外を目標指標とするものの状況」についての説明。
- ・資料3「地域福祉計画のうちアンケート調査結果を目標指標とするものの状況」についての説明。
- ・資料4「令和6年度住民アンケートについて」の説明。

(説明：事務局から説明)

委員長： ご質問やご意見はありますか。

委員： 町の方でも今回のアンケートの母数が少なかった原因は分かっておられると思う。ウェブ1本でアンケートをされたので、興味のある人の中で、さらにやる気のある人だけが答えたからである。京丹波町は高齢者が多くて、今ZTVになってインターネットを使う人が増えたが、ICT化が町全体に広がっていないのに、ウェブでどうぞと言われても誰もやらない。実際の町民の人口が1万2000人ぐらいですから、その何パーセントですかという話になるので、大事な町民の意見を本当に聞きたかったら、お金はかかるが、やっぱり今までどおり紙でやるしかない。自分たちの町のことだということで、集落の常会などで伝えて、協力してもらった方が良いのかなと思う。あんしんアプリでURLを流し、アンケートに教えてくださいといってもどうしても乱暴になりがちになる。あんしんアプリの表示方法もアンケートとか重要なスレッドに関しては、常に上に固定できるような設定ができれば良いと思う。

京丹波町でも、アプリの使い方とかスマホの勉強会とかをしてきていて、非常に良いことだと思っている。私も地域の公民館でときどき教えていたが、やっぱり分からない人が多い。ウェブだと、目に触れるタイミングでアンケートに答えてもらわないと絶対に答えない。でも、紙で来ると、あるから答えようかという気になる。次のアンケートはぜひ紙でやって欲しい。

委員長： アンケートの取り方について、事務局何かありますか。

事務局： 来年度は次期計画の策定に向けて、計画策定時、見直し時のように紙でアンケートを取る予定である。今回のアンケートで回答数が少なかったのは、ご意見をいただいたとおりと考えている。町としても、お知らせ版、文字放送、あんしんアプリ、町ホームページと周知の手段としてはすべて行ったが、回答が少ないという結果になった。

委員長： 次回は、できるだけ多くの人にアンケートを取るような方法を考えていただきたい。

委員： 子ども・子育て審議会で、未来を担う子どもたちの子育ての施策について、いろいろ考えている。審議会でも若い方、移住して来られた方、ここに住んでもっとこの町の魅力を発信し

たいなと思われる方、いろいろな意見を持っておられて、子育ての今度第3期計画を策定する。

私もアンケートに答えた1人だが、問11「その他、地域福祉計画に関してご意見等があれば記入してください。」の回答で、どの意見を読んでも中途半端できちっと行政側から答えというか、本当に困っている人にきちとしたサービスや情報が伝わってるのかなと思える。本当に寄り添った行政サービスが行われているのかなと思うようなことが書いてあるが、これは軽視できないとっていて、京丹波町でこれから子育てがしたいなと思われる方が京丹波町にいて良かったと思ってもらえるようなベース、子育てをもう終わりましたとか、子育てを見守る程度という、おじいちゃんおばあちゃんとか、若者を支えられるような60歳代、70歳代がもう少し住み良い町、行政サービスを受けて本当に安心して住んでるんだよっていうようなものが、この京丹波町地域福祉計画推進委員会で集っているこの場に明るい未来がなかったら、本当に子育てを京丹波町でして安心なのかなと思われるような若者世代が増えていき、また町を変えて違う所に住んだ方がいいと思われる方が多くなっていくのかなと思う。

本当に住んでいて良かったと思えるような町になるように真剣に、些細なことにぐらい答えて欲しいという思いである。

委員長： 大切なことだと思う。事務局何かありますか。

事務局： 自由記載にこちらとしても胸が痛むようなご意見があった。私たちの仕事が受け身なもので、なかなか積極的に発信するとか、アプローチすることができていないところがあると受け止めている。次の計画に向けて、明るい希望が見える形の行政というところを打ち出していけるように検討し続けていきたい。

委員： 町民にこういう施策があるということを知らせる一つの方法として、やはり地元の区、区長さんから区民に発信してもらうという方法がある。そうすれば生の声で区民さんにつながるの、その場で区長さんと区民さんも話ができて、横に広がっていくという感じがする。ウェブや郵便で送って答えてくださいというよりも、生の声で区長さんから区民に発信してもらったら、もっと浸透していくのではないかなと思う。

区長会でも自主防災組織の話が随分前から出ているが、私の区でも話が下りてきていない状況で、どこか途中で話が止まると進んでいかない。

一番最小単位である区、区で話があれば隣同士でも話ができて、ネットワークが広がるので、施策の内容を知ってもらうためには、小さい組織から発信していくのが良いのではないかなと思う。

委員長： 区長さんも年々代わるので、なかなか難しいところもある。それも含めて浸透していくような方法があれば、また検討していただきたい。事務局何かありますか。

事務局： 私たちも住民さん同士が、非常に情報のやり取りをされてるんだと感じるときがある。やはり町から発する言葉よりも住民さん同士でやり取りされる言葉の方が深いつながりがあるんだなと実感するときがある。そういったことも認識して、進めていけたらと思う。

委員： 資料2のボランティア団体数について、資料では、平成27年度の基準値の52団体から、今、令和5年度は46団体になって、コロナの影響もあると思うが、6団体減っている。たぶん最終的に増えることはなくて、尻すぼみになっていくのではないかと思う。なぜかというボランティアはどこかで限界が来る。私は今50歳だが、10年経ったら60歳になる。ボランティアができなくなって、逆にボランティアしてくださいよという立場に変わってくる。その代替りが当然出てくる。ボランティアをやりたい人口が多い少ないでこの団体数が上がったり、下がったりしていると思う。なので、ボランティアに頼るのはやめた方がいいと思う。補助的にボランティア団体に助けてもらうのは良いし、ありがたいことだが、傍から見ればあの人は無料、あの人は有料みたいになり、それもおかしな話である。

それが一番顕著に出るのが、村用であったり、区の出役であったりするが、村のことなのでみんなでやろうと言うが、もうみんなでやれなくなってきている。どこにしわ寄せが来るかと言うと、50歳代ぐらいの元気な人になる。村用がしたくて移住したわけでもないし、残っている人もこの地域を愛しているから残っている。村で祭りをしましよとなると準備から全部段取りするが、出て行った人はお客さんで、この差は何なのかということもある。だから、ボランティアは平等ではないと思う。最後まで責任を持ってやってくれるかも分からない。計画の目標指標として入れるのは、危ういのではないかと思う。

また、シルバー人材センターの会員数を公表する必要があるのかなと思っている。福祉にシルバー人材センターが入っている意味がよく分からない。会員を300人にしなければならない理由は何なのかという気がする。目標値の300人を割ったときは町としてどうするのかというのが住民的には一番気になる場所である。目標値を決めて、目標値を達成することでこれだけのことができるようになる、でも目標値を割ったらこれができなくなるということを確認すると住民も参画や理解がしやすい。

あと、地域の教科書は何に使うのか。質美にもあるが、福祉計画の数値には入っていない。ノーカウントと言われているが、今年、更新を考えている。それは、次の数値に含まれるのか、レギュレーションが分からない。必要なのであれば、地域振興会とか自治組織が主導するので、そこに対して、こういうルールで作ってもらいたいという要請を町からしないと作らない所の方が多いと思う。

委員長： シルバー人材センターは、元気な高齢者がいつまでも仕事をして長生きして欲しいという趣旨で、できるだけ元気で長生きして欲しいということでやってもらっている。仕事は紹介するが、無理矢理この仕事をしてくださいと言うことは絶対はない。目標値の300人は結構前に出した数字で到底無理であり、次の計画では減らしてもらいたいと思う。ただ、全国のシルバーでは、100万人計画として増やしたい方向である。

事務局： 10年間の計画というのが、今の変化が激しい時代に適応しているかということが、目標指標の問題にもあらわれていると感じている。おそらく10年前の福祉ボランティアの意義と今の意義と、根本的には変わらないところもあるが、社会変化によって位置付けや意義が変わってきている。もう1つは、行政として何らかの数字を目標にするという話が出始めた頃で、統計的に把握しやすいということで、指標として位置付けているものもあると思う。10年間の中で目標指標を変えられなかったというのも問題があったと考えている。次期計画の目標指標として何を位置付けるのかということ、計画期間も含めてご意見をいただいで考えていきたい。

副委員長： ふれあいサロン活動というのは、そもそも地域の住民さん自身で公民館に地域の方を集めて、手芸や食事会であるとか、お話し合いの場を持つ居場所づくりを地域の方自身が行われているボランティア活動である。社会福祉協議会から活動されませんかと呼び掛けて組織されたものではあるが、住民さん自身が自分たちでやるということで、取り組みをされているものになっている。数がコロナの関係で減ってきたこともあり、高齢化や担い手不足とか交通手段とか課題はあるが、令和6年度は1団体増えたという状況もある。居場所づくりの取り組みについては、計画には必要なものだと考えている。ただ、目標値が50会場ということで、元々72会場からゴールを22減らすというのが、実態に合わせて設定されたと思うが、目標値は高いところを目指すものだと思う。最低同じ数を目指していこうかということになると思う。この目標だと地域のサロンを減らそうという目標になると思う。

計画に関しては、分析というのが説明になかったと感じていて、数字が目標に届いたかどうかという説明はあったが、地域包括支援センターの相談件数であれば、97件から355件に増えている。サロンの数は減ってきている。何があったのか。どのような分析をされたのか。PDCAで進んでいると思うが、Cの部分がなくて、Aのアクションにつながっていないのではないかと感じた。

アンケートの関係では、地域福祉活動計画の策定時にアンケートを取った。各地区で1地区をサンプリングで取らせていただき、丹波地区では須知区、瑞穂地区では中台区、和知地区では安栖里区、その他共同作業所の通所者と家族さん、子どもの関係では子ども会であったり、500件のうち約250件回答があり、60%台の回収率であった。自治会ももっと高い回収率であったと思う。区長さんも協力的であり、良い結果が出るので、検討していただきたい。

事務局： まず、分析のことであるが、資料の作成において町の各課の施策と関係している部分があるので、担当課とやり取りをしながら、意見交換という形で場を設けており、一定の情報は入るが、施策を実際に担当しているところの情報までは得られていないのが現状である。

区長さんを通じたアンケートについては、詳しい方法を聞かせていただいて、町でもできるのかということも考えていきたい。

委員： 課題だらけで、課題の整理ができていないから何もできないというのが現実かなと思う。

具体的にどうやって課題を解決していくかという方法を考えていかないと、教育の問題で言えば、お母さん方が持つておられる課題をもっと目に見えるようにしていくことだと思う。本来は50歳代ぐらいの人間がこういう場に出るべきで、それが今は70歳を過ぎてからも出てこなければならないこと自体が、間違えている。70歳代は、言われたことを仕方なしにしている。それが役であったり、ボランティアであったりする。その課題を克服していく方法、それを見つけ出さない限り京丹波町は良くなる。それだけ京丹波の和知地区では、高齢者しかいない。小学校でも1学年10人程になっている。私の頃は1学年に180人程いた。そんな時代に考えてきたような流れを同じように今使うことに問題がある。先ほど話があったが、目標値は基本的には上げていかなければならないが、上げるためには何をしていったら上がるのかということを実際にみんなで考えていって、話し合いをすれば何かを見出せるのではないかと思う。

私も団体の役員を10年している。そういう課題が京丹波町だけではなく、京都府内でも全国でもいっぱいある。声を出して国を動かすようにしないといけない。そのためには小さな集団で何かをやること、小さな集団の中でみんなで話ができるようにすることも1つの方法であると思うので参考にして欲しい。

委員長： それでは、委員の皆様から近況などの話を聞けたらと思います。

委員： 民生児童委員協議会の今年の総会で1つの重点課題として、元旦の能登半島地震や最近では秋田や山形で大きな災害があったが、そのときにどうやって高齢者を安全に避難させるか、守っていくかということで、やはり自主防災組織が必要だと会長から提議があった。ぜひとも各区で作れる方向で民生児童委員も動くということだが、民生児童委員1人でできることではないので、関係機関が連携をしっかりと、増やしていこうということが決議されたのではないかと思っている。

どの程度増えるか分からないが、区長さんも1年、2年で代わっていく時代なので、行政とのパイプの区長さんとの連携も難しいが、なんとか頑張っていこうということが確認されたという状況である。

委員： 昨日、京都府消防操法大会があり、車の操法は和知支団、小型の操法は丹波支団が出場した。ゴールデンウィーク明けから練習して、7月中旬の町の大会で優勝したチームが府の大会に出るということで、週2回、3回程の練習をずっとしてきた。昔と変わってきたのは要員、選手になるものがないことで、今回のチームでも50歳を超えた者が出ている。なぜかといえば、練習に来れるものが高齢だからということもあり、そもそも団員数が減っている。2年前に定数を900人から850人に変えたが、実際には670人しかいない。操法に出るには隣の分団と合併しないと出られないというところまできている。しかしながら、前回の操法大会では、京都府で車も小型も優勝して、車の方は全国大会にも出場させていただいた。全国で団員数が減ってきているので、日本消防協会でもどうしたら消防団員が入ってくれるのか考えて、いろいろな施策を打ち出しておられる。

幸いにも京丹波町では力を合わせて、棄権もなく取り組んでくれているのでありがたいと思っている。将来的にはどうなるか、京丹波町でも団員が少なくなっているが、年間の行事をこなさないと、実際に災害が起こったときに活動ができないので、台風10号も頭に入れて、詰所に待機したいと思っている。実際に災害が起こったときには、しっかり対応できるような体制を作りたい。近況と消防団の方でも団員が少なくて活動が難しくなっていることを報告させていただく。

委員長： 台風も近づいているので、ご苦勞をかけますが、協力していただいでよろしくお願ひします。

委員： 役員にならない問題がどこでも勃発していて、高齢の方にもお世話になっているが、代替わりしていかないと新しいことが起きない。質美地域振興会でも、会長が10年になる。住民さんたちも地域振興会が何をしているのか、説明しても、興味があるのかないのか理解してもらえない。瑞穂地区は公民館という別組織もあるので、公民館が実施しているイベントなのか、地域振興会が実施しているイベントなのかよく理解できていない方もいる。地域振興会も2年後には合併しようという話が進んでいるが、結局、役員のなり手がいないので縮小しなければならない。おそらく京丹波町だけでなく、人口の少ない地域が頭を抱えている問題だと思う。どうしても地域のことはボランティア寄りになるので、報酬は出るが、これで年間頑張るのかという場合もあるし、最終的にお金で解決しないと誰も動かないというのなら、例えば振興会の会長をして年間100万円もらえるならずっとやる人が出てくるかもしれない。地域のことを考える人は役員をやってくれるが、人がたくさんいるところは得意ではないという人は関わってくれないので、もう少しみんなに関われるように地域単位でもしていかなければならないし、町からも促していくような施策をして欲しい。

私が引っ越してきて良いなと思ったのは、町政と住民の距離がすごい近い。役場の職員も住民で、隣近所という人もいる。大きい市役所では事務的にしか対応してくれないが、逆にこちらでは親身になって協力してくれる人もいる。村の役員を町の職員にやってもらっている地域も多かったり、大変だと思っている。距離が近い分、壁がないようにみんなで作っていったらと思う。

委員長： 実際、私の地区でも同じで、役をする人が限られている。今年は、地元だけで8つの役を受けている。徐々に仲間を作って、役をしていかなければと思っている。

委員： 役員をする人材不足を強く感じている。老人クラブでは、和知地区の老人クラブが全部なくなった。役員をしてくれる方がおられないということで、老人クラブ全体の3分の2がなくなってしまったという驚異的な数字である。できれば、老人クラブに60歳、65歳で次に入ってくる世代をうまく受け入れて役員をしていただけるような方向ができないかと感じる。何か良い方法があればご意見をいただきたいと思う。役員をするからとあまり責任を持たず、集会をするきっかけだけを作るというような軽い感覚で役員をしてもらえるといい。

役員をするという重責感があるのが大きいのかなと思っている。次の世代に引き継ぎをどうすればいいか良い方法があればと思う。

それと、地域福祉計画は、何が必要とされているのかというところが見えてこない。どういうアンケート調査をしたら良いのか、また考えてみたらどうかと思う。

委員長： 和知の老人クラブがゼロになり、私も入ったが、休会という形になった。老人クラブの役員の充て職が多すぎるのではないかと思う。老人クラブの役員だけなら数が少ない和知代表でもできるのではないかと思う。

委員： 和知は高齢者の数も減っている。日本中では高齢者の数が増えているが、和知は高齢化率は高く、実数も減っている。そのような状況なので、役もしてもらえなくなって、ただ昔から役があるので、誰かがしなければならぬというのが現実である。

委員長： 充て職の見直しをされるのも難しいと思うが。事務局何かありますか。

事務局： 地域福祉計画の位置付けが、子ども・子育てや障害者福祉、高齢者福祉、それぞれの個別の計画を横断するような計画になっていて、具体性に欠ける部分もあり、分かりにくい計画になっていると思う。

(4) その他

・資料5「京丹波町成年後見制度地域連携ネットワーク協議会設置要綱」についての説明。

(説明：事務局から説明)

○京丹波町成年後見制度地域連携ネットワーク協議会の開催予定について連絡

日時：令和6年11月28日(木) 午後1時30分から

場所：京丹波町役場 2階 大会議室

委員長： 全体を通じて何かありますか。

なければ、以上で会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

7 閉会(副委員長あいさつ)

今回始めて参加させていただいたが、すごい活発に意見が出る委員会という印象を受けた。地域の中でいろいろな課題があると思う。充て職の問題も話が出ていたが、社会福祉協議会の方でも理事とか評議員とか、充て職で出ているものもある。そのような定数に関して見直そうかということも会議の中で出ていて、定数を減らす方向に進みそうな雰囲気ではある。

いろいろな課題があるが、みんなで検討していけば良い方法はきっと見つかると思う。これから先もこのような委員会の場で今日のように検討していただいて、一緒に解決に向けて進めていきたい。今後ともどうぞよろしくお願いします。